

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人徳島県文化振興財団	
施 設 名	徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	10,992	(千円)
	公 演 事 業	8,948 (千円)
	人 材 養 成 事 業	401 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,643 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Re-think「あわ文化」 ～精妙な人形、唸る 声、共鳴する至高の身 体～	2年7月18日、19日 3年2月14日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、中 止することとなった。	目標値	1,500
		ホール		実績値	—※
2	クラシックふぁぼ in 藍場町 ～芸術の秋を 楽しむ～	2年9月5日、22日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、中 止することとなった。	目標値	1,100
		ホール		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## (2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形遣い派遣事業			500	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸術家派遣事業（福祉施設派遣型）			目標値	400
				実績値	
2	芸術家派遣事業			目標値	1,000
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
あわぎんホールの社会的役割や地域の特性に基づき、適切に組み立てられている。→達成 当初の予定通りに事業が進められているか。 → 中止のため未達成
<p>（その理由）</p> <p>伝統芸能の振興・普及促進をより一層図るため、徳島に根付く地域文化資源を活かした公演事業を企画した。また、県民が触れる機会が限られている海外アーティストを招聘し、「本物の生の音楽」を発信して事業を企画した。企画自体は適切に組み立てられているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止することとなったため、予定通りには事業を進められていない。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等があるか。 → 達成
<p>（その理由）</p> <p>徳島県における中核文化拠点の劇場として、徳島県内の芸術文化振興および地域活性化を図るという社会的役割を果たすために、企画された事業であり、文化的、社会的意義は認められるものであると考えている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

定性的、定量的な目標を達成したか。 → 定性的な目標については達成

定量的な目標については中止のため判断できない

(その理由)

定性的な目標として掲げた「徳島県の中核文化拠点である劇場として、徳島県内の芸術文化振興および地域活性化を図るため」というものは、事業を実際には実施していないものの、企画としてその内容を達成しているかどうか判断出来ると考えている。定性的な目標については、実績報告書に記載のとおりであるが、事業企画の意図から鑑みるに、達成できていると判断した。なお、新型コロナウイルス流行を鑑み、全事業を中止することとなったため、定量的な目標については達成したか否かの判断のしようがない。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して事業期間、事業費が適切であるか。 → 適切

#### (その理由)

事業の準備前に中止を決めたものや、準備を進めてきたものの、出演者が在住する首都圏を中心に緊急事態宣言が発出されるなどしたため中止となったものなど、それぞれに中止に至った経緯は違えど、未知のウイルスへの対応と考えれば、その事業期間や事業費は適切であったと考えている。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったか。 → 中止のため判断できない

あわぎんホールの社会的役割という観点から考えると、事業企画自体は、与えられたその社会的役割を意識したものとなっており、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮できるものとなっているが、実際には事業を実施していないため、評価をすることは出来ない。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を実施していないため、自己評価は出来ない。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業を通じて、劇場・音楽堂としての組織活動が持続的に発展するためには、その財政的基盤が強固でなければならないと考えている。しかしながら、指定管理者制度導入により、施設の管理期間自体が5年間に限られている中、中長期的視野に立った考え方が難しくなっている。自己努力で収入増が図れる部分は、施設利用料（利用料金制度が導入されているため）や事業の入場料収入で、その中で財政基盤の強化を図らなければならない。現状として、県都のホールは当館しかなく、施設利用料については、安定的に確保出来る見込みである。また、事業の入場料収入についても、近年、増加傾向にあるため、収益的にも強固になりつつある。その要因のひとつに、票券管理システムの導入が挙げられる。お客様の利便性向上はもちろんのこと、無料で会員を募ることで、ダイレクトマーケティングも可能となった。会員数は、発足以来4,300名を超えたが、その会員はいわば「あわぎんホールのファン」であり、組織が持続的な発展をするその下支えとなっている。また、寄附や協賛金などは調達できていないものの、この助成金含め助成金収入は比較的安定して確保することが出来ている。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れず、今後の先行きは不透明であるが、今後もその状況に応じて、持続的に発展していくよう、たゆまぬ改善を続けていくこととする。

また、事業全般としての維持・強化としては、PDCAサイクルの徹底により、より県民のニーズに沿った事業を展開することとしている（下図のとおり）。公演事業については、そのアンケート結果をはじめ、諮問機関である芸術文化委員会での意見交換などからニーズを汲み取り、その意見を反映する仕組みとなっている。さらに、ネットワークの構築としては、劇場・音楽堂間及び教育機関、福祉施設とのものが挙げられる。劇場・音楽堂間のネットワークについては、全国公立文化施設協会の中四国支部の構成館として支部発足以来務めており、主要な中四国の施設とはすでにパイプがあることから、今後はそのパイプを活かしつつ発展していくようにしたいと考えている。

